

高齢者介護サービス事業施設の職員における高齢者レク活動の 支援力向上についての期待 ～ セミナー受講者の場合 ～

○ 廣田治久（余暇問題研究所） 上野 幸（〃） 山崎律子（〃）

キーワード： 介護サービス事業施設、高齢者レク活動、支援力

1. はじめに

日本の高齢化社会において、高齢者介護福祉とレクリエーションに関する問題に対し、本学会や他の学会においても多くの研究が進められている。廣田、山崎、上野らも実践現場の視点から数多くの研究を進め、昨年本学会においては高齢者介護を実践する介護サービス事業施設において、その職員のレクリエーションに対する関心を調査した研究（廣田、山崎、上野 レジャー・レクリエーション研究 53号 2006年）を行った。その結果介護施設で高齢者介護に従事する職員のレクリエーションに対する関心やその教育機会の求めていること、これは職員自身だけでなく、施設側にも高いという結果を得た。しかしながら彼らが抱える問題として、認知症や麻痺など多様な利用者に対応することへの難しさやプログラム、具体的な支援方法を求める現状であることも示唆された。

そこで、本研究は昨年の研究の継続的な研究として、介護福祉現場での高齢者介護に従事し、そのレク活動を支援する施設職員を対象とし、高齢者のレク活動を支援するにあたって頭を悩ませている問題や直面する課題を明らかにすることが必要であると考えた。これらの実態を明らかにすることは、介護職員を対象としたレク活動の教育や支援力向上の手助けとなるべく開催しているセミナーへの示唆を得ることができること。レクリエーションの専門学会として活動する本学会において、高齢者介護福祉とレクリエーションに関する研究を進めていく上では、実際現場に直結する研究やその方向性の示唆を得ることにつながるものとする。ひいては要支援・要介護高齢者の生活の質（QOL）の向上につながるものとする。

2. 目的

本研究は高齢者介護福祉の実践研究として、民間有料セミナー参加者に行ったアンケートを基にその分類を行うこと。とくに介護施設職員が高齢者へのレク活動を支援するにあたって、どのような事柄に悩み・苦労しているのか、得たいと感じている情報や知識はどのような事柄であるかを探ることを目的とした。

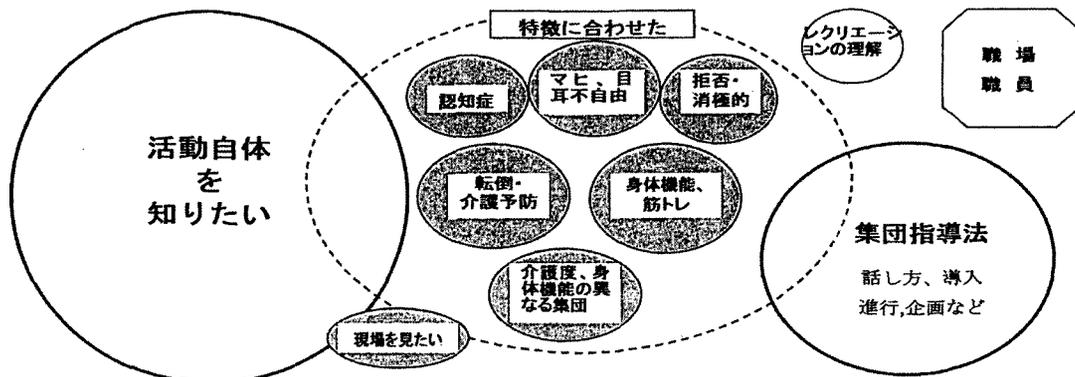
3. 研究方法

- ・ 対象はA社が主催する介護施設職員を対象とした「レクリエーションセミナー」を受講した参加者。開催時期 2007年 3/13 から 8/11。開催会場は札幌から沖縄まで全国 13ヶ所、全 18回。参加者総数は 675人。
- ・ 方法は参加者に行ったアンケートの内、「こんな内容を受けてみたい」の項目に記述された内容を抽出した。その回答をグループKJ法を用いて数個の“島”として分類し、さらにその内容の吟味を行った。

4. 結果

アンケートから抽出した項目の数は 301であった。全員が高齢者介護福祉施設の職員であるが、性別や年齢、介護の経験年数などは質問項目を設けなかったため不明である。

<グループ KJ 法による抽出項目の分類図>



5. 考察

- ・ 結果から、「活動自体を知りたい」の“島”が最も多く、即使える、すぐ行える活動など毎日の活動に苦慮していることを如実に表していると考ええる。
- ・ 「集団指導法」の“島”は、施設での活動の企画・準備からその評価、また人前での話し方、楽しく活動してもらうための盛り上げ方などの項目が含まれる。高齢者の活動支援を行う中で、その集団指導法の知識や技術の必要性を強く認識し、その理解や習得の強いニーズの表れと推察する。
- ・ 「特徴にあわせた」の“島”は、介護現場に求められる「身体機能の維持」「介護・転倒予防」や施設利用者に見られる「認知症」「マヒや目・耳の不自由」「参加の拒否や消極的」への回答である。さらにはこれらが混在した集団であることも表してもいる。それぞれに“活動自体を知りたい”とするニーズと“正しい理解や対応の仕方、指導法”を求めものに分けられるが、とくに『対象者の把握』の視点から考えると、それを踏まえた高齢者レク活動の支援は専門家として実践するなかでも最も重要であると認識・実感しており、介護職である職員にとってはそれ以上に難しさを感じているものと考ええる。
- ・ 「レクリエーションの理解」の“島”は数としては2つである。このことはレクリエーションの基本知識より前述した具体的な活動、集団指導法を求める現状の表れと考える。しかし、レク活動支援に関わる度合いが深くなるにつれて当然であろうと考える。
- ・ 「職場・職員」とした“島”は、その教育やスタッフ間のコミュニケーション、士気のあげ方を求める記述である。「元気が出る」「職員も楽しめる」などの回答もあり、介護現場における新たな課題が垣間見えたものと推察する。

6. 課題

介護現場ではすぐ行える活動を求めていること、さらには利用者の特徴を把握し、様々な特徴が混在する集団に対応する集団指導法の視点が求められている点に注目したい。介護現場の切実な求めに応えるための教育にも、多様な高齢者の活動を紹介する上で集団指導法を踏まえていることが重要であると考ええる。

また、このような視点が重視されることは高齢者レク活動が成果や結果だけでなく、高齢者をどのように把握し、活動をどのように行ったかという過程に注目した研究を進めることが高齢者レク活動の発展につながるものと考ええる。